



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



U-14日本女子選抜として自韓戦に出場した神谷さん(左下・17番)©JFA



全日本女子ユース(U-15)関西代表決定戦 兵庫県予選で優勝(後列左から2番目・7番)



自宅の練習場で

目指せ！未来のなでしこジャパン
大好きなサッカーに全身全霊を懸ける
将来、なでしこジャパンのメンバーとしてピッチに立つことを夢見る元気な女の子を紹介します。

かみやなるみ
神谷育実さん(日高東中学校2年・14歳)
日高町岩中

日本中を熱狂させたロンドンオリンピックが閉幕。サッカー女子では、日本代表(なでしこジャパン)が初めて銀メダルを獲得しました。

足の速さを生かす

「私もいつかきつと、なでしこジャパンのメンバーになりたい」と闘志を燃やすのは、神谷育実さんです。

スポーツ好きの神谷さんは、小さいころから足が速く、小学5年生の時に出場した兵庫県陸上選手権大会の100メートルでは、大会新記録で優勝。中学校では陸上部に所属し、1年生の時に100メートルで全国2位に輝きました。「兄やいとことサッカーをして遊んでいて、とても楽しかった」と、小学5年生の時に地元サッカーチーム「但馬SCリベルテ」に入りサッカーを始めました。

地元で女子サッカーチームがないため、中学からは三木市に本拠地を置く「FC VICTORIE」に所属し、毎週土・日曜日には父母の送迎で練習に通っています。チームでは、足の速さを生かすFWとして活躍。全日本

女子ユースU-15(15歳以下)の兵庫県大会で優勝し、関西大会に出場しています。

さらに上の練習環境を求めて

中学1年生で関西トレセンに選出された神谷さんは、ナショナルトレセンへの選出を目指しますが、残念ながら不選出。さらにハイレベルの練習環境を求めていた神谷さんは、未来のなでしこジャパン候補を発掘する「未来のなでしこセレクション」に応募しました。同セレクションには、全国から身体能力の優れた小学4年生から中学2年生の女子1069人が応募。サッカー経験の有無は問われなかったため、陸上やテニス経験者らを含めた45人が選抜。神谷さんも見事選ばれ、3月17(18日)に御殿場市(静岡県)で開催された同セレクションに参加しました。当日は、トレーニングやコーチとの面談、フジカル測定などがあり、なでしこジャパンの佐々木監督からの講義もありました。中でも、40メートル走は、なでしこジャパントップクラスの選手に匹敵するタイムをたたき出し、関係者らを驚かせま

した。「佐々木監督は『何かキラッと光るものを持っている選手がほしい』と言われていた。サッカーでは自分はまだまだ下手だけど、足の速さでは負けない。足を生かしたサッカーをしたい」と神谷さんは力を込めます。

この後、JFAエントリプログラム女子トレーニングキャンプに3回召集されました。「夢のよう」とはにかむ神谷さん。夢に向かい一歩前進した瞬間です。

今できることを精いっぱい！

「高校のこととかは、まだ決めていない。自分のサッカー環境は厳しいけど、家族の協力を得ながら、陸上と両立させて頑張りたい。将来の夢は、やはりなでしこジャパン。まずは、2年後に開催されるU-17ワールドカップのメンバーに選ばれるために、今できることを精いっぱいやるだけ」と目を輝かせていました。



▲元気いっぱい神谷さん。趣味は読書と寝ること

※トレセン制度…ナショナルトレーニングセンター制度の略。日本サッカーの強化・発展のため、将来日本代表選手となる優秀な素材を発掘し、良い環境、良い指導を与えることを目的に始まった制度 ※JFA…日本サッカー協会

学校探検

中学校編 5

竹野中学校(竹野)

案内者 宇川直也くん(中)(3年A組)、
宮嶋美穂さん(右)、
八木楓さん(左)(3年B組)

竹野中学校は、竹野川を見下ろす高台にあり、在校生は111人です。生徒会のスロージャーガンに「挑み続ける鷹野っ子 夢に向かって日々前進」を掲げています。



同校生徒会長の宇川直也くんはバスケットボール部、副会長の宮嶋美穂さんは剣道部、書記長の八木楓さんは吹奏楽部に所属しています。3人が口をそろえて言うのは「練習は厳しい」。しかし、宇川くんは「みんな練習している」と楽しい、宮嶋さんは「みんな協力して勝負することが楽しい」、八木さんは「みんなで演奏し、曲になったときがう



れしい」と協力することの大切さ、達成感を感じています。今回は、宇川くん、宮嶋さん、八木さんの3人に竹野中学校を紹介してもらいました。

特徴ある取組みとして力を入れているものが三つあります。一つ目は「あいさつ立番」です。毎日生徒会執行委員が玄関口に立ち、あいさつを行います。地域の方から「きちんとあいさつができているね」と言われるとうれしいです。二つ目は「ボランティア活動」です。全校生徒に呼び掛け、希望者が四つの福祉施設を訪問し、高齢者や子どもと触れ合います。施設で手伝いなどをするうち、達成感を得るようになりました。三つ目は「校歌を大きな声

で歌うこと」です。毎月の生徒集会では、3年生が中心となって校歌を歌います。自分たちが通う学校の校歌を大きな声で歌うことは、私たちの自信につながって良いことだと思えます。また、ブルタブ・ベルマーク・ペットボトルキャップの「収集活動」では、各学級に回収ボックスを設置し、月末に回収しています。近隣の店舗などに



▲福祉施設で高齢者や子どもに触れ合う様子

も収集に協力してもらい、集めたものは、関係団体に送り、ワクチン購入などのために役立ててもらっています。「収集活動」は、後輩たちにぜひ、受け継いでもらいたい伝統の一つです。竹野中学校では、これまで良き伝統が受け継がれてきました。今後も良いものは継承し、また新たに良いものを見つけながら、より素晴らしい学校にしていきたいと思います。

笑顔の輪

五十鈴会(出石)

一針一針 心を込めて まり作り



▲心を込めて作った御殿まり。デザインや色使いに個性が光る

御殿まりは、色とりどりの糸で一針一針刺しゅうされた模様美しいまりです。その製作を楽しんでいるのが五十鈴会です。現在の会員は8人。JAたじま出石支店(出石町町分)隣の建物が活動拠点です。毎月1回、会員の都合のいい日に集まります。

御殿まりの製作は、最初に、まりの刺しゅうのデザインを考えます。次に、ビニール袋にもみ殻などを入れ、糸で巻いて丸い形に整えます。その後、まりの表面に、糸でデザインの基本となる地割(三角形、

ひし形、六角形など)をします。最後に、好みの色の糸で刺しゅうをし、色付けをします。

指導に当たる絹川さん(出石町中村)は「地割りの組み合わせで、いろいろなデザインができます。根気のある作業ですが、完成したときは充実感があります」とうれしそう。また、「手先を使うので、脳の刺激になる」「刺しゅうに使う糸で印象が変わり、その人の個性が出て面白い」など、会員ごとに、楽しみ方もさまざまです。

代表の川見さん(出石町町分)は「刺しゅうに使う珍しい糸を見つけると、欲しくなってしまう。ただ、特殊な糸の入手が難しくなってきました」と話し、おせち料理の重箱のように、色とりどりの糸が並べられた紙箱を見つめます。今後は「御殿まりだけでなく、会員が得意分野ごとに先生になり、活動を続けていきたい」と意気込んでいました。